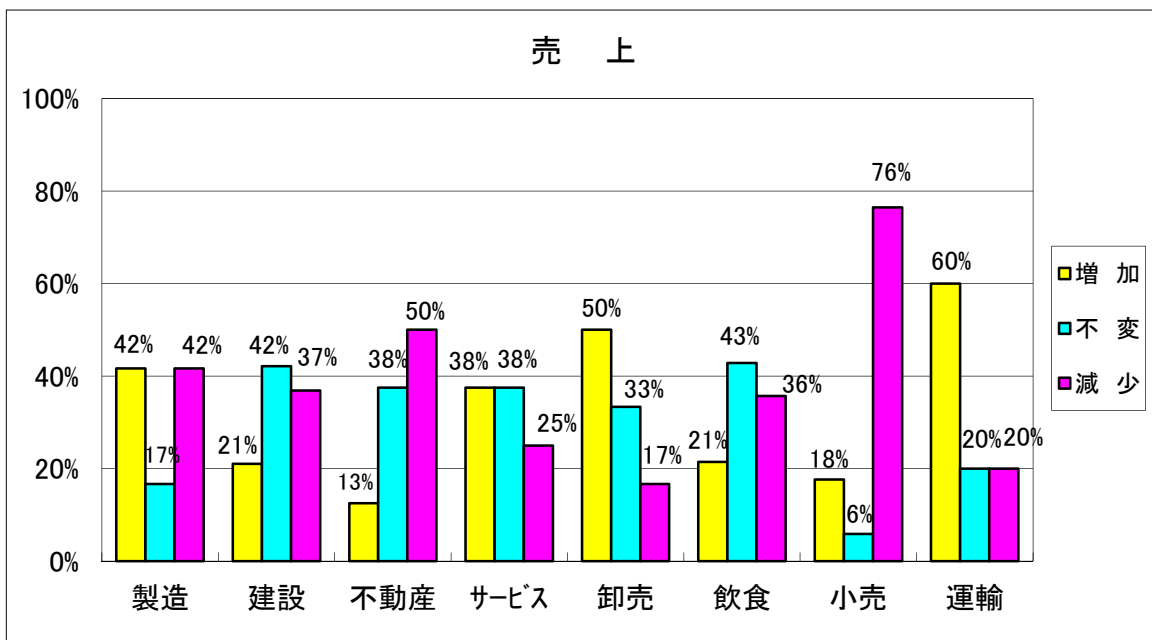


調査1 平成30年7月～12月の水準が、昨年同時期と比べてどのような推移をしているかを①売上 ②採算 ③仕入単価 ④従業員 ⑤業界の景気動向 ⑥資金繰り ⑦金融機関の融資状況の7項目について調査した。各項目について、業種別で集計したところ次のとおりとなった。なお、⑤業界の景気動向については過去の調査結果と平成31年上期の見通しについて比較表示してある。

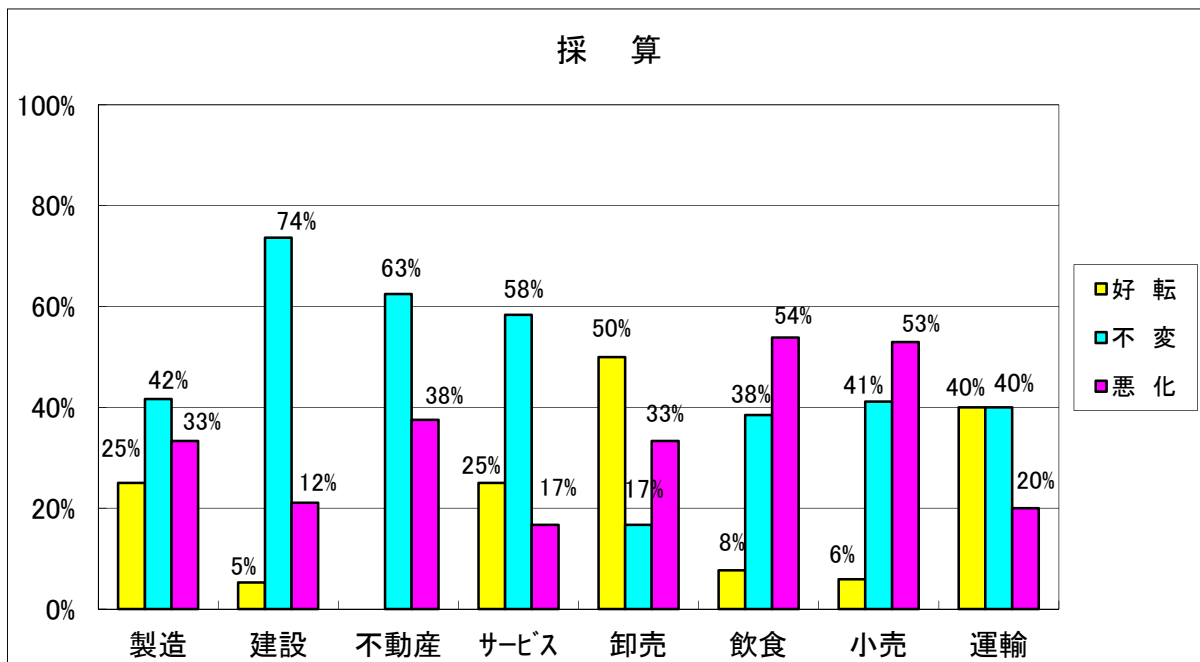
①売上について

全体的でみると昨年より「増加」が30%（前回24%）、「減少」は39%（前回35%）と、前回調査に比べると売上増加企業が多くなっている。その中で、売上「増加」が見られたのが運輸業（60%）で前回調査に続いて好調であった。一方、「減少」が顕著なのが小売業（76%）であった。



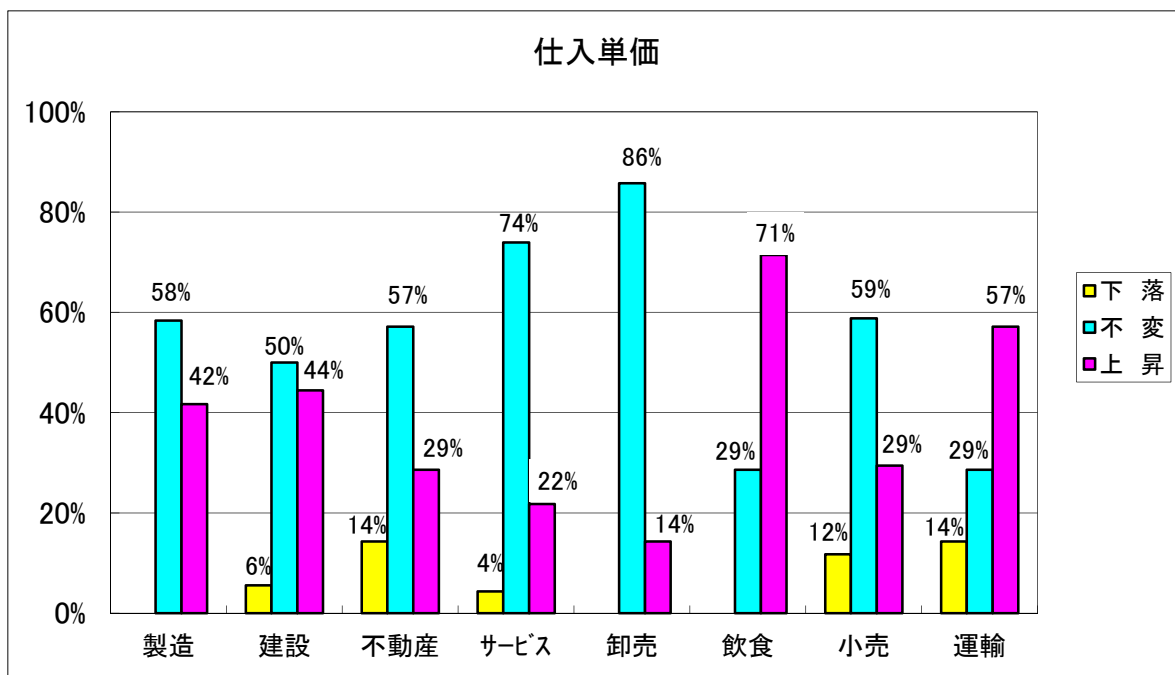
②採算について

全体でみると、「好転」17%（前回25%）、「不変」51%（前回53%）、「悪化」32%（前回22%）であった。業種では卸売業（50%）が「好転」し、飲食業（54%）が「悪化」している。前回調査では飲食業100%悪化であったのが若干持ち直しつつある状況。



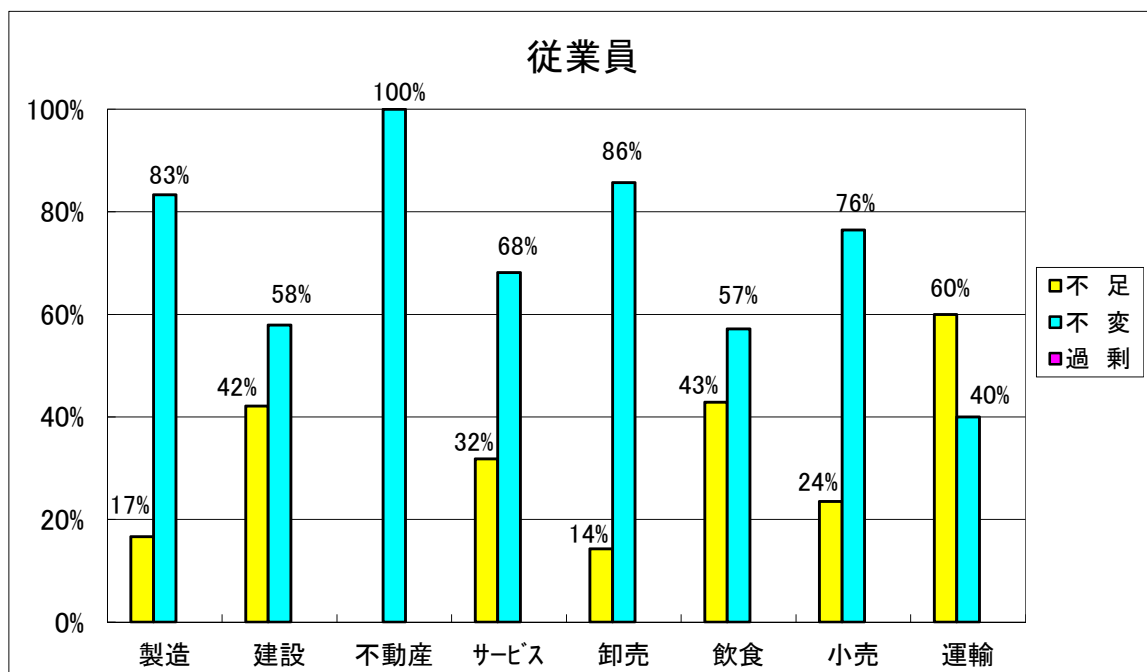
③仕入単価について

「上昇」が顕著なのが、飲食業71%（前回86%）、運輸業57%（前回80%）と前回、前々回調査と同じ業種が上昇が多い状況。

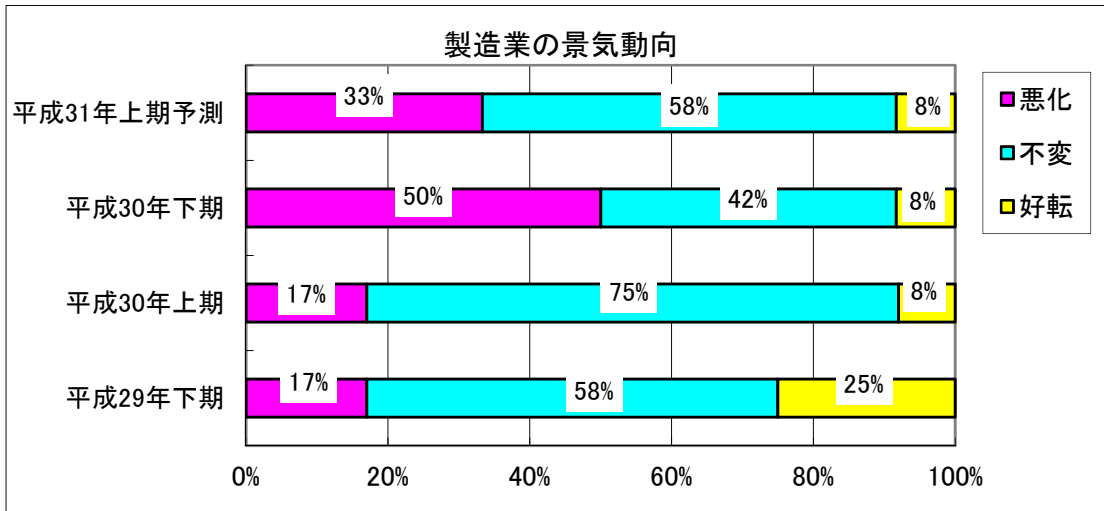


④従業員について

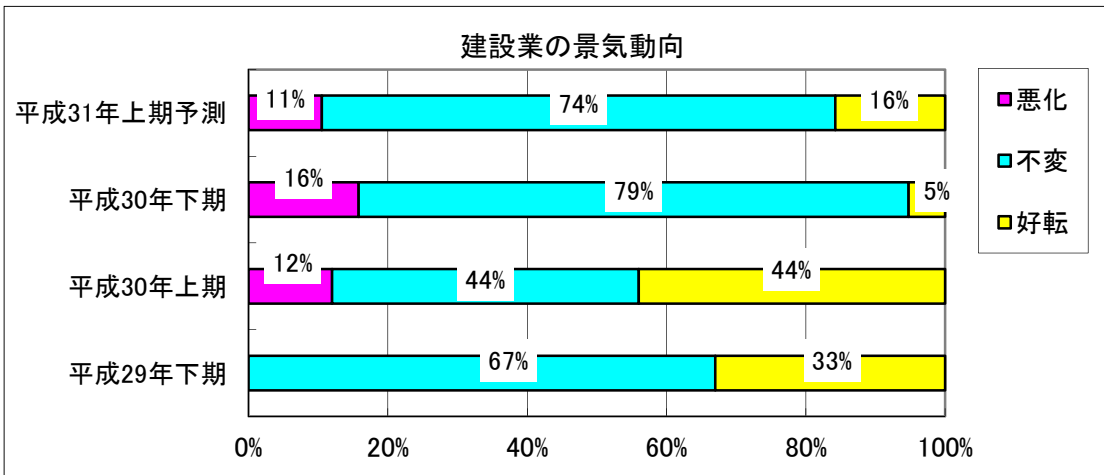
「不足」が顕著なのが、運輸業60%（前回80%）飲食業43%（前回29%）で、前回調査と比べると運輸業は変わらず不足の状況が続き、今回、飲食業が半数近く不足と回答している。



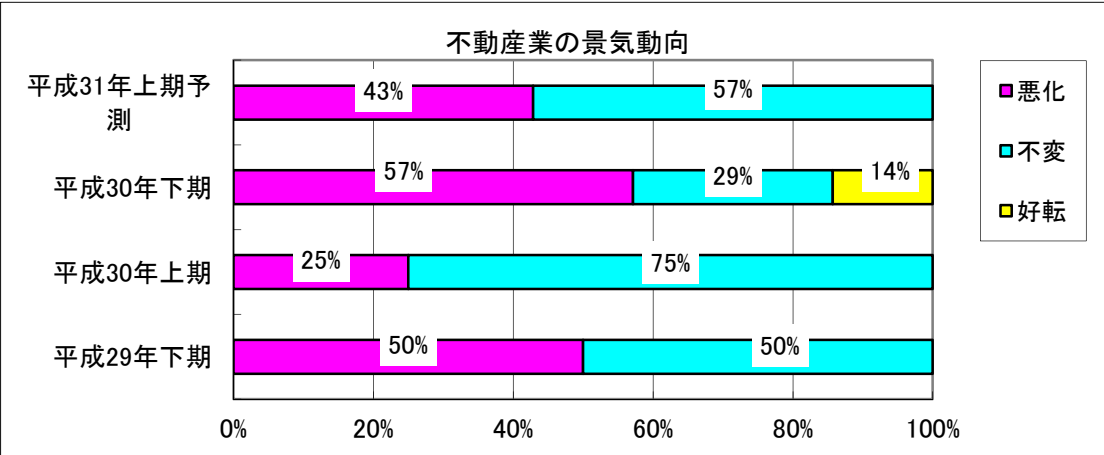
⑤業界の景気動向について



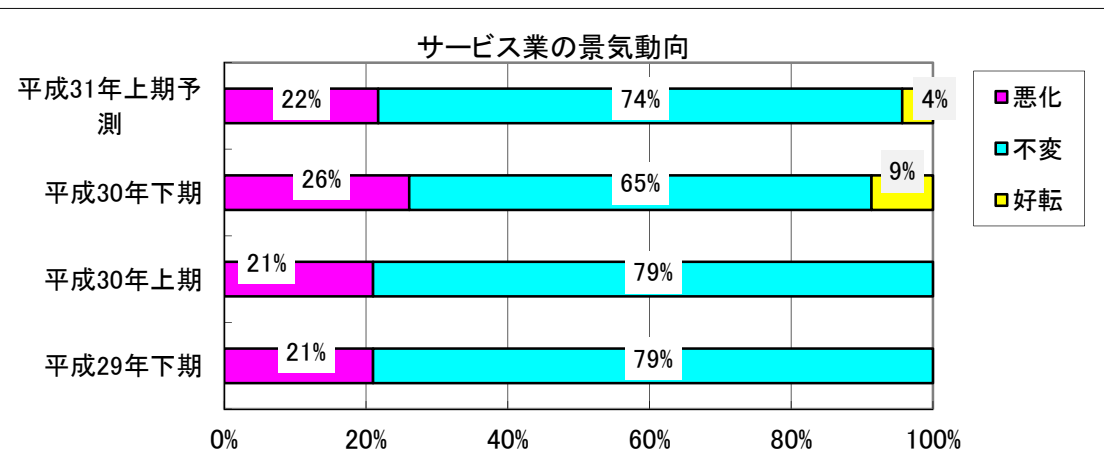
■製造業
平成30年下期では、「好転」が8%で「悪化」が50%と悪化傾向が強い。「米中貿易摩擦」などの経済摩擦が要因の一つと指摘があった。平成31年上期の見通しは「好転」が8%、「不変」が58%で「悪化」33%との見通しである。



■建設業
平成30年下期は、「好転」が5%、「不変」が79%で「悪化」が16%であった。平成31年下期では「悪化」は16%との見通しで景気の停滞感が感じられる。



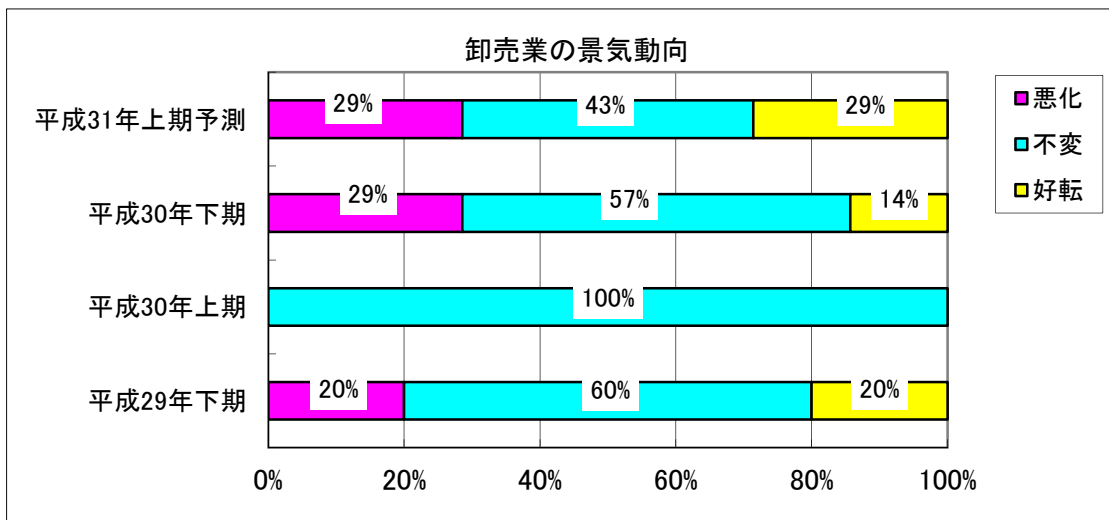
■不動産業
平成30年下期は、「好転」(14%)の回答があるものの「悪化」が57%と厳しい状況である。平成31年上期は「好転」の見通しがない。



■サービス業
平成30年下期では、「好転」が9%、「悪化」が26%で厳しい状況であった。平成31年上期は「好転」が4%、「不変」74%、「悪化」が22%と依然として厳しい状況である。

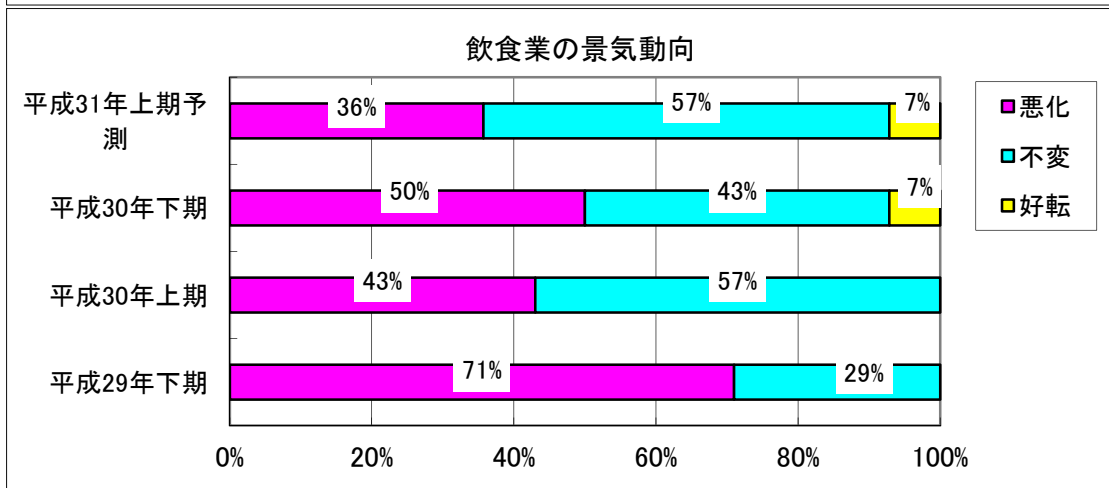
■卸売業

平成30年下期は「好転」が14%、「悪化」が29%、「不変」が57%と不安定な状況であった。平成31年上期では、「好転」が29%と上向きの期待が見受けられた。



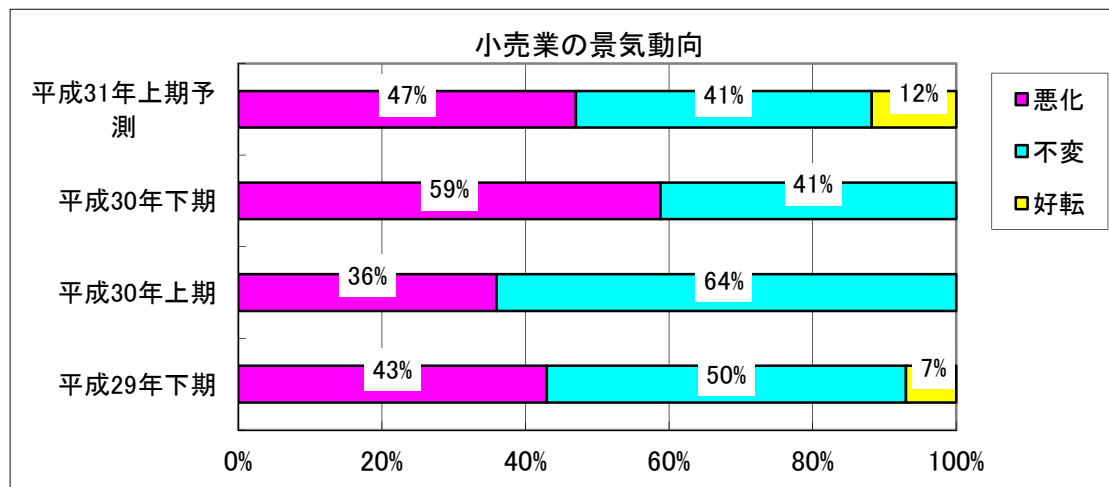
■飲食業

平成30年下期では「好転」7%とあるものの「悪化」が50%といまだ厳しい状況である。平成31年上期も「好転」7%、「悪化」36%と若干減少している。



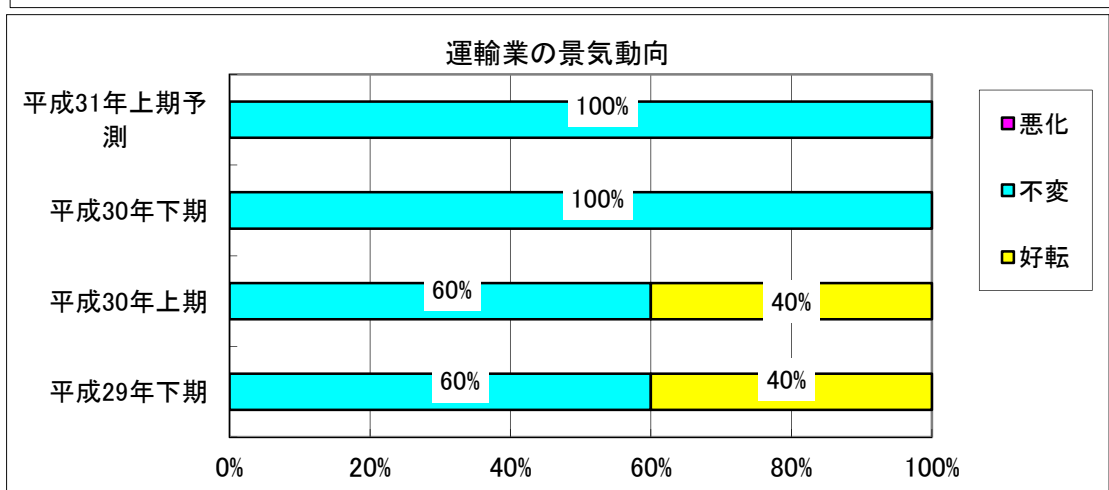
■小売業

平成30年下期は、「好転」がなく「悪化」が59%と悪化傾向が強い。平成31年上期の見通しは「悪化」が47%と減少し、「好転」が12%の見通しとなっている。



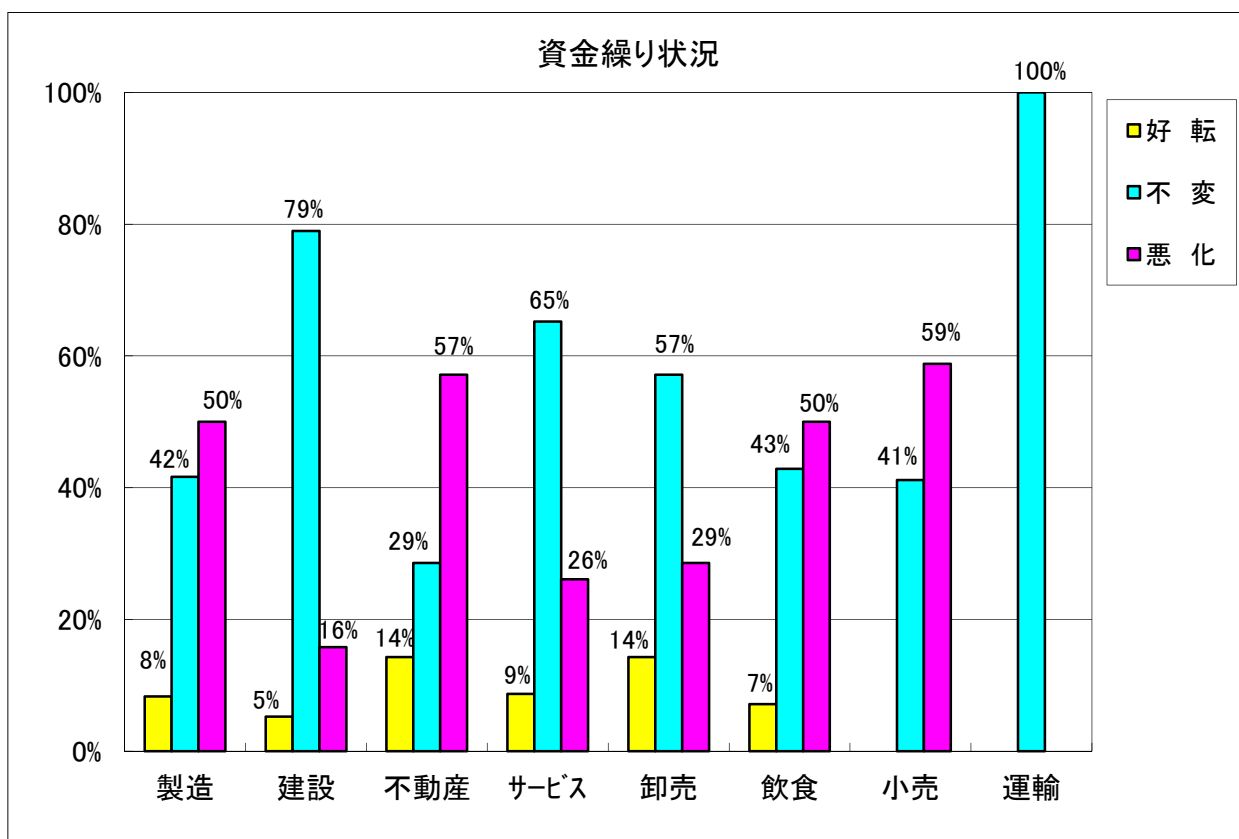
■運輸業

平成30年下期は、「好転」が無く「不変」が100%と景況感はかわらない。平成31年上期も「不変」が100%の見通しで良くも悪くもない引き続き安定的な見通しである。



⑥資金繰りについて

全体で見ると「不変」が78%（前回83%）、「悪化」が16%（前回12%）、「好転」が6%（前回5%）と回答している。前回調査と大きな変化は見られない。業種で見ると小売業・不動産業が悪化傾向が強い。



⑦金融機関の融資状況について

全体的にみると「不変」が49%（前回57%）、「融資無し」が28%（前回23%）、「厳しい」が5%（前回4%）、「緩やか」が18%（前回16%）であった。融資状況については概ね良好な感じがする。

